

会 議 録

会 議 名	第2回武蔵村山市環境審議会
開 催 日 時	令和7年9月9日（火）午前10時00分から11時30分まで
開 催 場 所	さくらホール 集会室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：尾崎寛直会長、宮田博之委員、尾川和宏委員、佐々木善男委員、竹中輝和委員、栗原誠委員、長瀬雄一郎委員、松浦光明委員、下田智道委員 欠席者：上原恵美委員 事務局：環境保全係長、環境保全係主事
議 題	1 武蔵村山市第三次環境基本計画素案について 2 その他
結 論	議題1：素案について、出された意見を踏まえて修正を行う。
審 議 経 過	<p>議題1 武蔵村山市第三次環境基本計画素案について</p> <p>－武蔵村山市第三次環境基本計画素案（以下、素案という。）の第1章・第2章について、事務局から説明－</p> <p>○国際動向について、アメリカのトランプ大統領によるパリ協定離脱宣言のような、温室効果ガス排出量削減の流れに反する動きや、欧州でのEV推進速度の変更についても記載を検討してはどうか。 9ページの熱中症に関する記述について、今年の夏の気温上昇の具体的な数値を盛り込むと、より説得力が増すのではないかと。</p> <p>●限られた紙幅の中でどの程度入れられるかは要検討ながら、熱中症を災害として捉える観点から、具体的な数値を盛り込むのは良いと考える。</p> <p>○クーリングシェルターについて、休みをずらして必ずどこかが開いているという取組は、非常に良い。</p> <p>○クーリングシェルターは非常に重宝している。</p> <p>○気候変動対策について、国の目標値（2035年60%削減、2040年73%削減）や、東京都の目標値（2035年60%以上削減）に最新の情報を更新して記載していただきたい。 環境教育・学習の推進は、市の役割（市民・事業者への学習機会提供）として重要であり、記載を充実させるべき。特に、子どもを通じて家庭への普及啓発につながる視点も含めるべき。</p> <p>●前計画の振り返り（21ページ以降）は、政策ごとの達成度や課題を総括する場であり、現状の数行の文章では不十分。個々の政策の進捗状況を細かくまとめた資料に基づいて記述すべき。</p> <p>□振り返りの内容は修正する。定量的なデータについては、資料編に年次報告書からの抜粋を添付する形で対応する。</p> <p>●第2章の12ページ以降についてご意見をいただきたい。</p> <p>○市民意識の分析において、昔から住んでいる人と最近転入してきた人とは意識が異なると思われる。最近来た人をどう巻き込んでいくかを念頭に置いて分析し、計画を策定してもらえればと思う。</p> <p>○リサイクルの推進について、リユースについての市民意識が低い結果となっているが、市でリサイクルセンターのような拠点を設けているか。</p> <p>□そのような拠点は設けていない。代わりに、不用品を市民間で譲り合え</p>

- ：会長
- ：委員
- ：事務局

- る「ジモティー」と協定を結び、リユースを推進している。
- 23ページの「策定にあたっての視点」は、なぜこの視点で検討するのかが唐突で分かりにくい。第2章で論じた社会情勢や前計画の振り返りを受けて、この視点を選んだ理由が分かるような構成にすべき。
 - 重要な指摘と言える。「策定にあたっての視点」は再整理を行う。
 - 20ページの事業者の協力意向について、行政からの働きかけがあれば協力したいという回答が多い点に関し、過去10年間、市として事業者への働きかけをどのようにしてきたか聞きたい。
 - 事業者に対しては、ごみの回収や資源化の呼びかけ、省エネ診断や補助金制度に関する情報の周知などを実施してきた。今後さらに強化していきたい。
 - 今後取組を強化していくのであれば、市として情報発信や働きかけが重要になってくるという点を記述に加えるのが良い。
 - 20ページのアンケートの結果は、補助金以外は全ての項目で協力意向が後退しており、過去10年間の行政の取組が形になっていない印象を受ける。行政として反省点を含めて記述すべき。
 - 事業者の協力意向が低い背景には経済的な厳しさがある。現在は環境に意識を向ける余裕がなく、補助金の要件も厳しく利用しにくい状況。環境対策に取り組む事業者に、税の優遇措置などのインセンティブがあれば、動きは変わってくるはず。経済状況の厳しさが一番大きな問題。
 - 環境に取り組む余裕がないという現状は理解できる。行政は、調査結果を受け止めつつ、不足していた点、および事業者が協力意思はあるが環境が整っていないという現状を記述する必要がある。
- 素案第3章「1 望ましい環境像と施策体系」及び「2 環境像の実現に向けた取組」の「基本施策柱1 自然と共生するまちの創造」について、事務局から説明—
- 第三次計画の望ましい将来イメージ「一人一人が環境を考え、安心して快適に暮らせるまち武蔵村山」は了承としたい。
柱1「自然と共生」について、26ページの「文化が大切にされています」という記述は、歴史的文化・景観は第4の柱に移動したため、削除すべき。
 - 先日、電線の上をハクビシンと思われる動物が歩いていた。外来生物対策は力を入れて実施してほしい。
 - 32ページの公園整備について、野山北公園の自転車道の桜並木はとても綺麗だが、駐車場がなくアクセスしにくい。魅力向上のためにも、駐車場の設置を検討してほしい。
 - 駐車場の整備は把握できていない。
 - 野山北・六道山公園は都立で最大の都市公園であり、市の魅力となるため、都との連携を考えていく必要がある。
 - 30ページの水辺環境について、残堀川や空堀川が市民にとって魅力的なのか疑問。野山北・六道山公園の湧水などの保全に注力すべきではないか。
 - 残堀川は案外きれいな川で、実際に歩いたら、川沿いがきれいに整備されていて驚いた。もっと宣伝しても良いのではないか。
 - 残堀川は基本的に都の管轄である。親水施設が3箇所あり、魚も生息していて、昔に比べて水質は改善している。
 - 都が多自然型河川づくりを重視する方針があるため、地域の議論が盛り上がり、整備が進む可能性もある。
 - 33ページの生け垣への転換に対する支援策は、具体的な取組内容に記

載してはどうか。また、市民への意識啓発が必要とあるにもかかわらず、具体的な取組内容がないのはバランスが悪い。

生物多様性の情報収集について、市でどのような具体的な情報が取られているか知りたい。

29ページの「一定基準以上の樹林・樹木の指定」は、樹木保全のための補助金制度であると理解しているが、29ページと33ページで同じ内容が重複しており、29ページの「樹林地の保全」との関連性が見えない。

□「一定基準以上の樹林・樹木の指定」は、特定の樹木に対する補助金制度である。

29ページの重複については、都や国が絡む部分であるため、再度範囲を確認して内容を修正する。

31ページの情報収集は、文化振興課の方で担当している部分もある。

●33ページの市民への意識啓発については、「情報提供を行います」ではなく、制度の周知など積極的な政策として具体的に記述すべき。

35ページの環境指標（数値目標）について、定量化できるものが少ない。従来の目標（里山のふれ合いの場の参加者数を「毎年の増加」）は、コロナなどイレギュラーな状況が生じるとカウントが難しい。

○参加者数を目標とするのは難しい。透水性舗装の面積の増加など、市の活動成果が反映される定量的な指標の方が分かりやすい。

里山のふれ合いの場の参加人数については、参加者へのアンケートで満足度を維持するなど、成果としての里山の環境維持に焦点を当てた指標が良いのではないかと。

●柱1の環境指標は、前計画より項目が削減されすぎている。学校給食での地場野菜利用率など、再度精査し、より詳細に検討していただきたい。

—素案第3章「2 環境像の実現に向けた取組」の「基本施策柱2 脱炭素社会への移行」について、事務局から説明—

●柱2は、「武蔵村山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の内容をスライドさせたため、ボリュームが増大し、新規項目が多い。

○柱2全体について、現状、課題、取組という流れとなっているが、課題として提起されているにも関わらず、取組内容に反映されていない箇所が散見される。全体的に確認していただきたい。

例えば、公共施設に関する記述が、課題と取組内容で整合しない、事業者への情報提供が必要なのに記載がない、不法投棄対策が唐突に出てくるなど、整合性が取れていない箇所がある。

気候変動適応策はしっかりと書かれている。

□柱2については、現状、課題、取組内容がリンクするように調整する。

●柱1（29ページ）のように、問題点と必要な取組が明確に示され、整合性が取れた書き方にさせていただく必要がある。

41ページの環境指標について。太陽光発電設備は「設置数」ではなく「発電量」で評価する方が良い。クーリングシェルターも、ニーズを踏まえた適正な目標値を設定していただきたい。

—素案第3章「2 環境像の実現に向けた取組」の「基本施策柱3 循環型社会の構築」について、事務局から説明—

○柱3は、現状、課題、取組内容がよくリンクしている。ただし、④食品ロス削減と⑤プラスチック使用削減の取組内容が、新規なのに1つずつ

